

## ■ 会員 Now

# 四電エンジニアリングの新規事業の取り組み

## — 風力発電から水の宅配まで —

電気部 綾田 善一

### ■ 「利他の心」と「付加価値」

「利他の心」があれば、物の道理とやるべきことが見えてくる……。

「人は、お湯を自分のほうへかき寄せる。お湯は腋から逃げていく。『いいお湯ですね、どうぞ、おあたりください』。お湯を他の人の方へ押しやると自分の腋から入ってくる」。『「利他の心」で、物の道理が見えてくる。欲があると見えなくなる。』6歳の頃、父と五右衛門風呂に入ったとき、父が言ったその言葉を今も忘れないと……当社の社長が社員に飲み会の席で話した。「付加価値」を重視した業務運営について『イラスト』にして社員全員に配付した。みんなが付加価値に気付き意識改革が芽生え、組織は変わった。イラストで伝えた付加価値教育の効果がここに出た。

### ■ 新規事業

四国は山と田畑が多い。少子高齢化が進む農業を、林業を、地域をどう守るのか。四国電力グループの当社は、電力設備の建設・保守を担う会社である。電力設備の工事で培った技術力を活用して、「四国を生かす」「地域を生かす」ため、部門を越えて一人ひとりが何をすべきか社員一丸で思索し、色々な新規事業を提案し取り組んだ。実際に事業に取りかかってみると、その道のりは決して平坦なものではなかった。しかし我々の持っている電気、機械、通信、エネルギー、土木建築、環境保全などの技術で、問題の大半は解決することが出来た。

企業の省エネ、省力化を支援するソリューション事業、安全でおいしい水「アクアクララ」の製造および宅配事業、木質バイオマス（石炭と混焼させる受入貯蔵、供給設備、日本で初めて、木や竹から石油代替エネルギー（液体燃料）およびマテリアル（プラスチック原料等）の抽出などを目的に作るモデル事業、更には、採算性のある風力発電事業にプロジェクトファイナンスをする事業まで……現在、四国の風力発電事業（2サイト）にファイナンスを実施している。1994年、四国電力の高知県室戸風力発電

所の建設に参加して以来、ノウハウを蓄積し、1999年に北海道苫前町において日本初の大規模風力発電所となる「苫前グリーンヒルウインドパーク（20MW）」を建設し、北海道から沖縄まで29地点、183基の風力発電設備の建設工事を行ってきた。そしてここ最近、ついには自ら風力発電事業にも進出した。2009年2月に徳島の大川原高原で1,300kWの風車が15基、1万9,500kWが稼働。2010年7月には鹿児島県の頼娃町で2,000kWの風車が7基、1万4,000kWの風力発電設備が動き出した。

### ■ 安全リストバンド

「当たり前のことを当たり前！」これを日々維持継続することはとても難しいことである。「違反、事故、災害」すべては基本が守られていないことに原因がある。作業着手前の危険予知活動、どれだけの作業員が今日の安全一言を念頭に作業しているのだろうか？そこで弊社が考案したのが「安全リストバンド」である。「安全」「確認」という文字が、どの目線からでも一目である。現場代理人から作業員まで、作業着手前に「ご安全に！」と手渡し、その日の作業終了時に「今日も一日お疲れさま！」と回収し、作業に従事するすべての方に安全意識の高揚を図るため着用を徹底した。これまでに比べ事故が激減したことは言うまでも無い。これがあらゆる業種でこれが水平展開され、各企業が採用するにあたり問い合わせがしばしばあることに、安全に対する意識改革が促進されていると感じる。

### ■ 次世代に向けて

政府も再生可能エネルギーを対象に全量買取制度導入へ踏み出そうとしている。しかし、事業者にとっては最重要課題である資金調達の課題がある。一昨年のリーマンショック以来、金融機関の融資が厳しい状況となり、世界中の風力発電所の建設にも追い打ちをかけた。幸いにも我々の風車建設では自己資金で何とかクリアして、本年7月から稼働、売電しているが、地域や市民など草の根レベルでの事業化に

は公的債務保証制度などの支援策が求められる。このように、これからも風力発電事業には紆余曲折、さまざまな課題が待ち受けていることだろう。だが、我々としては、風力・太陽光発電等、再生可能エネルギーの更なる普及促進に向けて今後も努力し、「利他の心」で、地元を生きし、地域を生きし、そして会社を生きしていきたい。風力発電事業も、ソリューション事業も、水の宅配事業も、将来的には大きく大きく貢献していると確信する。

### ■最後に

最後に、景気低迷の中、社員が縮み志向を引きずること無く、閉塞感を持つことの無いよう、水の宅配では女性社員主体で継続、発展し、若い女性社員をリーダーに起用し、紆余曲折を経て軌道に乗せることが出来、風力発電のSPC(特別目的事業会社)設立には40代の若手社員を役員に就任させる等、目標は、新エネ、省エネ、省力化にとどまることなく、社員教育から経営を含めた総合ソリューションサービス事業である。「Challenge and Change」、会社の未来を切り開く「挑戦と改革」に挑めるこんな会社が私は大好きである。



四国電力 松山太陽光発電所(2,000kW) 完成イメージ



穎娃町で風力発電事業を展開 左は開聞岳



ブレード取付状況



安全リストバンド ポスター



安全リストバンド